

未来の薬剤師たちのために、今、 私たちにできること

日本病院薬剤師会常務理事
東北大学病院教授・薬剤部長
眞野 成康 Nariyasu MANO



新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が急速に拡大し、会員各位におかれましては分注や予診支援等で大いにご活躍のことと存じます。より多くの国民に一日でも早くワクチンを接種することが、「公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」うえで極めて重要であり、薬剤師が果たすべき任務に私たちが全力で取り組むことが期待されています。また、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会において、現行制度の下で薬剤師が実施可能な業務が数多く取り上げられ、それらにより医師の負担軽減のみならず、医療安全や医療の質向上につながるものとして期待されています。

日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の次期診療報酬改定に関する要望事項は、改定のあった年の秋頃に募集され、様々な議論を経て翌年の通常総会までに取りまとめられます。本年6月の通常総会で報告された令和4年度の診療報酬改定要望書については、ホームページ掲載の総会資料等をご覧いただきたいと思いますが、今回は「タスク・シフティング」と「診療連携や地域連携」の推進が重要なキーワードになっています。平成22年4月30日付医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」には、現行制度の下において薬剤師が実施可能な業務がまとめられており、9年を経た現在でも、そのままタスク・シフティングを推進するための具体的な方策として読むことができます。しかも、そこに記載の業務を効率的かつ効果的に実施するうえで、院内の医療スタッフだけでなく、ほかの医療機関や保険薬局等との情報連携の充実が重要となることがわかります。さらなる情報連携の充実のために、自施設がどのような情報を保険薬局等に提供すべきかを熟慮し、必要に応じて情報提供先と十分に意見交換しながら連携強化を積極的に推進していただきたいと思います。

さて、薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会で、今後20年ほどの薬剤師の需給推計がまとめられ、将来的には薬剤師が過剰になるとの予測が示されました。一方で、病院や診療所に勤務する薬剤師不足も指摘されており、今後バランスの取れた人材確保の工夫が必要になるものと思います。薬科大学の入学定員等に関する動きがあるのかまだわかりませんが、少子化社会において十分な資質を有する薬剤師の供給はますます難しくなるものと想像できます。激変する社会の要請に柔軟に応えるために、どうすれば優秀な「人財」を確保し、育て、そして活躍し続けてもらえるのか、まさに今の私たちに課せられた重要な課題です。

診療報酬、タスク・シフティング、あるいは人材確保について議論していると、いつも最終的には、医政局長通知に記載されているような業務をはじめ、薬剤師が今果たすべき任務に全力で取り組むことが最も重要なことだと再認識することになります。私たちだけでなく、未来の私たちの仲間のために、そして国民の健康な生活を確保するために、会員の皆様が積極的に様々な業務に取り組めるようサポートして参りたいと思います。今後とも日病薬の活動にご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。